

林業事業体レポート File 03

東蒲原郡森林組合

【東蒲原郡阿賀町】



①倒れた木は枝を払ってから玉切りをする。秋から冬の時期は、木が水上げをする前で、幹に含まれる養分も少ないため乾燥しやすく、切り口のきれいな木が採れる ②狙った方向に木が倒れるかを見届けることも大切 ③左から森林技術員の酒井勝也さん、清野幸男さん、酒井輝雄さん、石川健二さん。右の荒井晃治さんは現場管理を担当



作業道の整備と高性能機械の活用 新しい林業の在り方を考える



①組合の敷地内にある国産材加工施設は昭和57年に建てられた。丸太の周囲を削って四角い材にするなど、注文に合わせて加工する。不要な材はおがくずに ②工場長の伊藤久平さん。「木は1本1本性質が違うから、どう加工するか見極めるのが大切です」と話す ③林業が盛んなこの地区では昔から加工業も行っていた。加工施設の右側部分は廃校になった学校の体育館を改造したもの



取材で訪れたのは東蒲原郡阿賀町日出谷平瀬(びようせ)地区の県行造林「平瀬(びようせ)団地」内の利用間伐現場。雪の積もった山は立っているだけで足先から寒さが伝わってきたが、現場の皆さんは黙々と作業をこなしていた。

町の面積の約94%が森林で豊富な森林資源を有する阿賀町は、昔から林業が盛んな土地。東蒲原郡森林組合では、現在、通年雇用9名と期間雇用3名の森林技術員を雇用。また、敷地内に加工施設を持ち、組合員はもちろん一般からの製材受け付けと加工された材の販売を行っている。近年の木材産業の停滞や森林所有者の世代交代に伴い、管理の行き届かない森林も増えているが、その対策として、現在、力を入れているのが森林整備を推進するための林道・作業道の整備だ。平成24年にはプロセッサを導入し、作業の効率化も図っている。阿賀町では間伐による木質バイオマス活用に取り組んでいるが、組合でも良い材を消費者にアピールするための新しい林業の在り方、可能性を追求している。

雪で地面が白く覆われた現場にチェーンソーの音が鳴り響く。受け回を入れる清野幸男さんの足元に木くずが飛び散る

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

自分の手で木を伐る喜び



清野 幸男 さん

年齢:49歳 林業経験:5年

Seino Yukio

農業をはじめ、自然に関わる仕事をしてきました。林業もまた、自然の中での作業で四季の変化を日々、感じられます。私は重機による伐倒よりも重くてもチェーンソーを使って自分の手で木を伐るのが好きです。思ったようにきれいに伐れたときはとても気持ちが良いです。夏の暑いときや冬の寒いときは大変ですが自然相手だからしょうがないですね。



さらに仕事を極めたい



石川 健二 さん

年齢:31歳 林業経験:13年

Ishikawa Kenji

祖父が林業をやっていたので自然とこの仕事を選びました。始めた頃は夏の下刈りが体力的にも厳しくて大変でしたよね。好きな仕事は伐倒です。山の仕事の魅力は、静かな山の中で自分のペースで作業ができること。ずっとこの仕事をやってきたから、今では他の仕事は考えられません。これからもさらに技術を磨き、仕事を極めていきたいと思っています。



①作業内容を確認する荒井さんとオペレーターの酒井さん。酒井さんは林業経験17年。重機は何でもこなすが特にプロセッサのオペレーターとして現場の第一線で活躍している ②グラップルで伐倒された木の根元をつかんでカッターで枝を除去していく ③枝払いと玉切りを効率的に行えるプロセッサで作業効率が格段にアップした ④丸太の曲がり、くさり、色などを見て、選別し、フォワーダで運ぶ準備をする。グラップル付スイングヤーダのオペレーターは石川さん

【事業体Data】



東蒲原郡森林組合

住所／東蒲原郡阿賀町向郷乙515 電話／0254-95-2016
設立／平成8年(合併) 資本金／1億766.5万円
従業員数／21人(森林部門10人) 勤務時間／8:00～17:15
主な勤務地／阿賀町
主な従事業務内容／森林整備、木材加工販売

【事業主コメント】

一昔前までは木の使い道は住宅資材と決まっていたが、時代は変わりました。今、林業に携わる者は木を育て、販売して終わりではなく、良い材をどのように活用するかまでアピールしなければなりません。消費者が木にもっと興味をもってくれるように伝え、商品開発などの提案が必要だと考えています。



東蒲原郡森林組合
代表理事組合長 石川 正文